

# 研究者として深く広く、道を求めて



## 臨床医の キャリアを捨てて

京都の医科大を卒業し、臨床医として6年のキャリアを積んだ増田さん。しかし研究者としてもっと基礎から勉強しよう、と、あえてそのキャリアを捨てて再び研究の道を選びました。

徳島大学を選んだきっかけは、研究室の六反仁教授の後輩が勤め先の病院にいたこと。さらに六反先生の研究室が、昨年開設されたばかり

で、その新しい息吹も魅力であったかもしれません。

また六反先生のモットーは「人材育成」。

「若い研究者を育てるのが私の使命だと思っています。新しい分野を開拓できる人材を出していきたいですね」

こんな研究室の環境がやる気にさせてくれます。

滋賀県出身の増田さんは、奥様とまだ10ヶ月のお子さんと共に、生まれて初めて徳島へやってきました。

「徳島は自然が多くて、子どものためにも環境がいいですね。生活もしやすいです」

と、徳島を気に入っています。

## RNAの 基礎勉強に取り組み

増田さんが六反先生の研究室でまず取り組んでいるのが、RNAの研究です。

## 世界に通じる研究を

研究室では現在15名が学んでいます。当然、増田さんはその中でも最年長。でもみんな良い意味で友達

DNA(ヒトゲノム)の時代からタンパク質の時代へ移行する中で、近年急速に注目を集めているのがRNAなのです。

RNAは、遺伝子情報を持つDNAとその情報を身体中に伝達するタンパク質の間にできるものとして存在は以前から知られていましたが、その働き自体はあまり知られていませんでした。ところが最近の研究によって、その作用に大きな意味があることがわかってきています。



関係。

「現場での治療も大事ですが、医学や科学は日々進歩しています。医師は、常に新しい情報や技術を取り入れていくという研究者としての柔軟な発想も必要です。皆にはそういうふうにと大きく伸びて欲しいですね」と、六反先生は研究室のメンバーに期待を寄せています。

増田さんの勉強はまだ始まったばかりです。

「とても勉強しやすい環境ですね。研究はそれぞれ数人のグループで取り組んでいますが、週に一度集まって情報交換したりアドバイスしたりします。休みにはみんなでキャンピングしたり、とてもアットホームな雰囲気です」

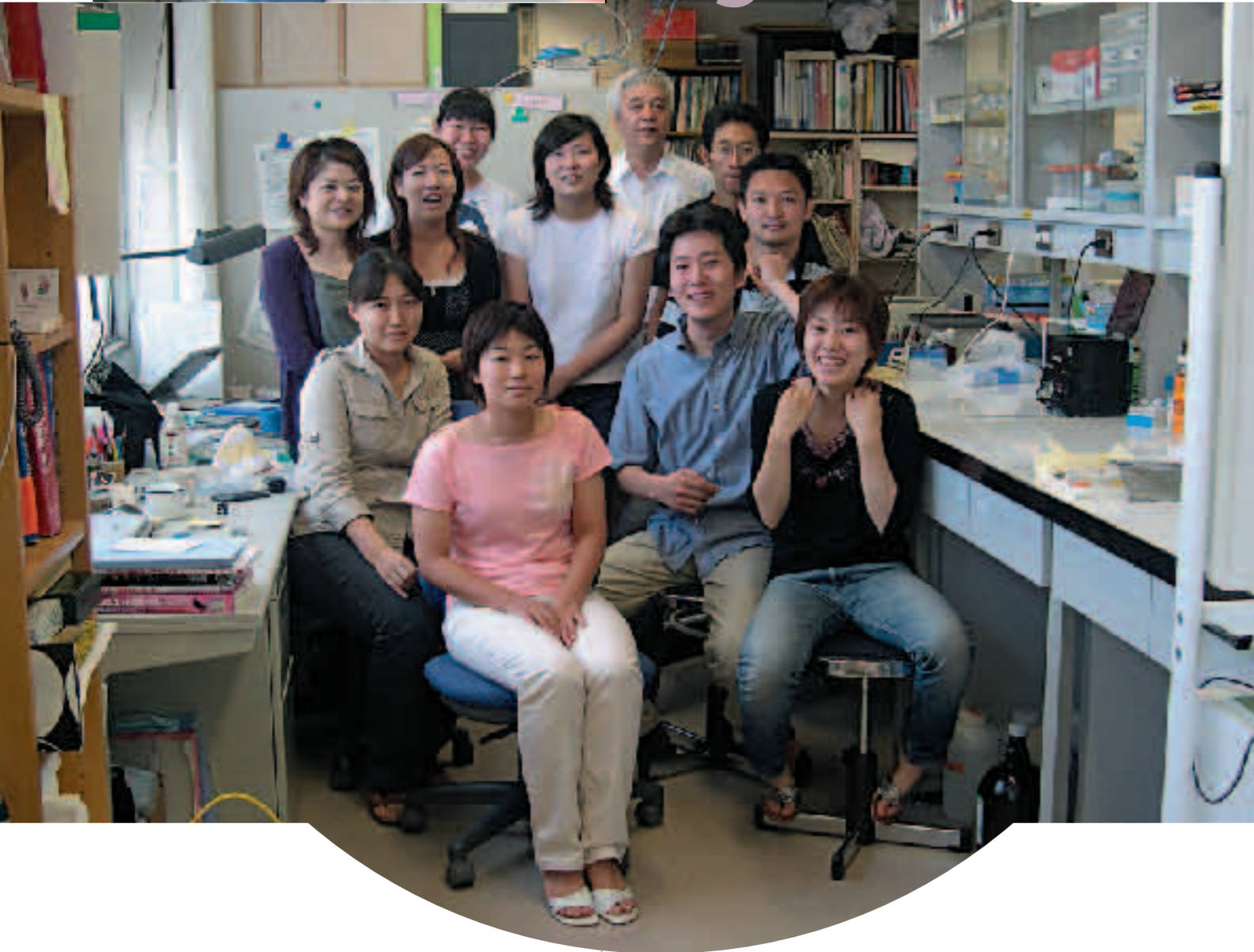
そして将来の目標として、「研究がしたくて来たのですからがんばります。研究を続けるか、臨床に帰るかはまだ決めていませんが、研究をするなら臨床に近いところで研究したいですね。もちろん患者と向かい合うことも大切なことです。もし臨床に帰るなら、研究者としての体験は貴重なものになるでしょう」と、世界に通じる研究をめざして意欲満々です。

## ストレス評価用DNAチップ

(末梢白血球のmRNAの発現変化を網羅的に解析しストレス反応を評価)



# Kiyoshi Masuda



## DNAチップのクラスター解析

(遺伝子発現データの医学的相関解析とバイオインフォマティクス)

